

Photographic Society of

# Zone System

ゾーンシステム研究会会報

発行日: 2025.4.1

発行者: 中島秀雄

事務局・編集: 畑 文夫

No.76

## CONTENTS

- ・ 細江英公先生の逝去を悼む
- ・ 第 27 回写真展
- ・ 第 28 回写真展
- ・ 新宿御苑ミニ撮影会
- ・ 特集 ミニレクチャー
- ・ 2024 年活動記録



## 細江英公先生の逝去を悼む

東京写真大学に入学した年の11月、学内は文化祭の準備に追われていた。私は“同好会フェロー”に参加し、1年生ではあったが作品が1点選ばれ展示されることになっていた。

その年の文化祭に細江英公先生が招かれると聞いたのは講演日の一週間くらい前だったと思う。講演の当日、階段教室は満席に近かった。先輩からは細江先生の作品“おとこと女”について幾度となく聞かされてはいたが、どのような写真家なのかはまったく知らなかった。

講演が始まり、壇上に現れた細江先生は年齢よりもずいぶん上に見え、近づきたい半面時折みせる笑顔に親しみは感じられた。

1時間ほどの講演が終わり、質疑応答の時間になった。同好会フェローの先輩が最初に手を上げ質問をした。「先生、写真とは何ですか？」この質問に私は驚き難しさも感じた。大学から事前に何でもいから質問するようにと各クラブ活動の部長に通達があったと後で聞いた。

細江先生はその質問に「君、いい質問するね。 そうだな、うーん“写真とは 人間とは何か だよ”と答えた。写真家の中谷吉隆さんが私の三列うしろの席におられ、「中谷君そうだよね！」「はい、私もそう思います」。このやり取りに私は言葉が出なかった。細江先生の自信に満ちた受け答えに私は写真作家としての気質の現れと感じ、今でも記憶にはっきりと残っている。今にして思えばこの一件が私を細江さんに近づけたと思っている。

しかし、私は講演で細江先生が何を話したかはまったく覚えていないのだ。

\* \* \*

昨年の9月に細江英公先生は91歳で亡くなりました。私は細江先生ほど写真作家としてすべての事をやり遂げた人をほかに知りません。

写真作家、作品展、写真教授、芸術選奨文部大臣賞、清里フォトミュージアム館長、全米巡回展、A・アダムのワークショップ参加、ワークショップの日本への導入、オリジナルプリントの重要性、英王立写真協会特別勲章の受章、文化功労者、旭日重光章の受章……。

細江先生の写真文化に果たした役割はあまりにも偉大です。私は9年間アシスタントとして働いてきましたが、微力ながら今までの経験を活かしていきたいと思っています。

細江英公先生のご冥福をお祈りいたします。

中島秀雄



ゾーンシステム研究会  
レクチャーにて  
2002年2月

## 第 27 回写真展

アイデムフォトギャラリー「シリウス」

2023.12.7～13

### 銀塩写真への拘り

フランスの発明家ニエプスが、写真の原形“ヘリオグラフィ”に成功してから今年で196年になる。

写真は人間の知恵である科学と技術の融合から生まれたもので、そこに芸術が重なり写真の領域を広げてきた。しかし、現在、写真の主流はフィルムを使わない電子画像に切り替わっている。

写真は対象物の直接的な痕跡である。

被写体から反射してきた光の粒子はフィルムの銀粒子に捉えられ、現像によってネガとなる。フィルムは画像形成の大きな役割を果たし、ここが電子メディアと決定的に異なるところだ。私たちがフィルムに拘る理由もここにある。

私たち研究会は当初からフィルムを使う大型カメラによる銀塩写真に拘り、銀の化学変化によるプリントの美しさを探求してきた。

自然風景の明暗や形態、室内の静物にもカメラを向け、また、旅行途中に出会う街並みと造形美、そして、都市開発に使われたガラスや硬質な素材によるファサードと建築の内部構造にも興味を深めてきた。

都市風景にしても自然風景にしても、被写体は常に私たちにイメージを投げかけて来る。しかし、そのままでは写真にはならない。大型カメラは被写体と私たちの中間にあって、見過ごしがちなディテールなどレンズを通したシャープな画像としてピントグラスで引き受けてくれる。

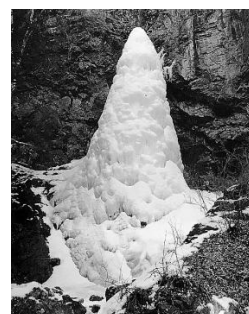
ピントグラスを眺めることは写真制作の出発点で、最終プリントを予知するビジュアルライズのためにも大型カメラはその役割を果たしてくれる。

ここに展示した作品のすべては、作者一人一人がピントグラスを眺めた結果なのだ。

中島秀雄



Winter tree 畑 文夫



冬山の贈り物 皆川 賢



冬の痕跡 中島秀雄



雪晴れて 越後久雄



アーヘンの朝 葛城忠彦



Show window 鈴木知之



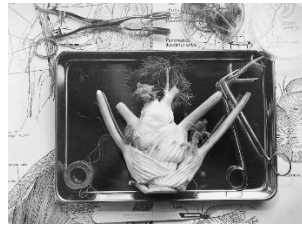
seven lily buds 川北 弘



ヴェール 白井健司



霧笛 小菅秀一



Botanical 中島秀雄



MONOLITH 塚田佳佑



美濃夜神社の倒木 藤森利昭



竣工間近 長谷川勇夫



Illumination 鈴木知之



Yucca at the Dunes 橘田 功



dome & dome 鈴木武志



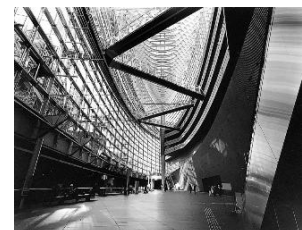
圍繞の気 長谷川 登



大蒜 浜野次郎



変貌都市東京 大内 元



東京国際フォーラム 大内 元



Abbaye du Thoronet 畑 文夫



塔からの眺め 旧市街 葛城忠彦



ハーレー ダビッドソン 宮内廣仁



ヒョウ顔の流木 藤田 昇



#shell 若子敏規



薔薇窓 浜野次郎



bat orchid 川北 弘



風のかほり 橘田 功



パンパスグラス(白銀葦) 石井康子



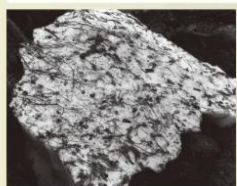
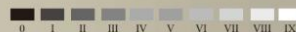
deep summer 白井健司



観音沼 小菅秀一

## 光への探求 — 銀塩写真の魅力 —

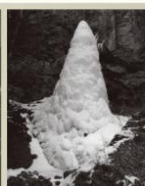
Sirius Presents Photo Exhibition Vol.972



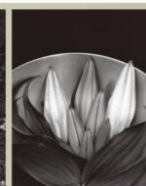
H.Nakajima



T.Katsuragi



K.Minagawa



H.Kawakita



I.Kitsuda

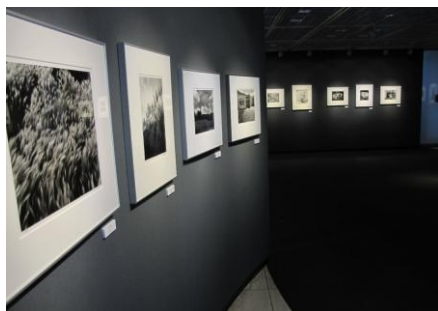
“写真家が被写体を観察するとき、イメージ管理という考え方を適用して視覚的なイメージを制御する。” — A. アダムス

### ゾーンシステム研究会 第27回写真展

2023年12月7日(木)~13日(水) AM10:00~PM6:00 最終日はPM3:00まで/日曜休館・入場無料

中島秀雄/石井康子/白井健司/越後久雄/大内 元/葛城忠彦/川北 弘/橘田 功/小菅秀一/鈴木武志/鈴木知之/塚田佳佑/長谷川勇夫/長谷川 登/畑 文夫/浜野次郎/菅川 賢/宮内廣仁/藤田 昇/藤森利昭/若子敏規

写真展会場スナップ



## 第 28 回写真展

ギャラリーE&M 西麻布

2024.11.6～17

### モノクローム銀塩写真の魅力

ゾーンシステム研究会は、今年 28 回目の展覧会になる。

私たちは、主に大型カメラによるフィルムを使うモノクローム銀塩写真に取り組み、プリントを発表してきた。

モノクロームの世界は眼で見ることにはできないが、見ることで見えない白と黒の微妙な色合はつねに私たちの憧れとなっている。

現実が繰り広げる世界は実に豊かだ。様々な空間や物の形状、そして光と影によるバランスに私たちは常に刺激を受け、カメラを向けてきた。そして、それらをありのままに切り取り、その本質を明快に表現したいと考えてきた。

自然風景、都市風景、そして静物であろうとそれ自体に魅力を感じ忠実に写し取ることが写真ではあるが、それ以上に被写体を写真に写し変えたいという強い作為が写真制作には必要なことだと思っている。

現在、写真環境はすっかり電子画像に切りかわっている。しかし、大判のフィルムに写し取られた潜像は現像によって黒化銀に変化し、プリントによって黒の深みを増す。

その美しさは、他のメディアにはない銀塩写真の大きな特長だ。

私たちはこれからも銀塩写真にこだわり続けていきたい。

中島秀雄



ウエストンへのオマージュ 中島秀雄



集音器 中島秀雄



The Eldorado 浜野次郎



パラレルな都市の眺め 中島秀雄



パリの街角 越後久雄



東京国際フォーラム 大内 元



都市の迷路 中島秀雄



ショーウインドー 大内 元



Metamorphosis, Shibuya 畑 文夫



Metamorphosis, Shinjuku 畑 文夫



鹿島海軍航空隊自力発電所跡 小菅秀一



樵の樹 越後久雄



ブナ 白井健司



北の花園 鈴木武志



Climber 鈴木知之



森を守る(ネズコ) 長谷川登



Moonlight Park 鈴木知之



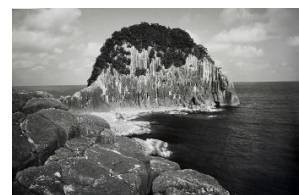
雪纏う山稜 岩田伸一



三原山 小菅秀一



怒濤 藤田 昇



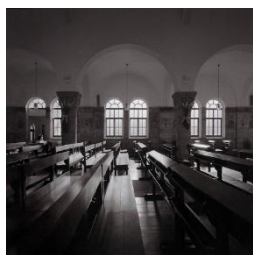
節理の島 楯ヶ崎 藤森利昭



鹿島海軍航空隊汽缶場跡 小菅秀一



水底 浜野次郎



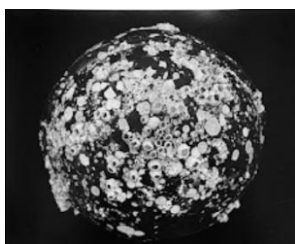
In Tranquility 葛城忠彦



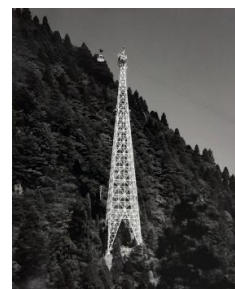
佇む時間 中井陽一郎



Window 塚田佳佑



貝の惑星 藤田 昇



御在所ロープウェイの白鉄塔 藤森利昭



ハマオモト 長谷川勇夫



蓮 岩田伸一



familiar night 白井健司



スクリュー 宮内廣仁

H.Nakajima

T.Fujimori

## 光への探求

### — 銀塩写真の魅力 —

PHOTOGRAPHY EXHIBITION

「一つの曲の演奏は、ネガをプリントするのと同様に、多様にあってもよいが、本質的な概念は保持する必要がある。」  
— アンセル・亚当ス デネガティブより

## ゾーンシステム研究会 第28回写真展

2024.11.6 [水] - 17 [日] ギャラリー  
イー・エム 西麻布  
12:00~18:00 / 入場無料 11[月]・12[火] 休廊

G.Ouchi

K.Tsukada

J.Hamano

写真展会場スナップ



## 新宿御苑ミニ撮影会

中島秀雄

2024年3月30日、絶好のお花見日和に新宿御苑は多くの人で賑わい、咲きほこる桜の周囲はさしずめ人間の花が咲いたようにも見えた。我々4人は巨木や竜舌蘭の植物が対象で目的が異なり、撮影にはそれほど支障ならなかった。

イエローフィルターを使い、巨木はゾーン II~III、空はゾーン VI とした。

カメラをセットして撮影を始めると米国人 2~3 人が木製のカメラに興味を示し近づいてきた。いつ頃のカメラだ、素晴らしい、どこで作ったカメラ、何を撮っているの、セントラルパークは木、ビル、人間も撮れるからセントラルパークへ行くのがいい。フィルムで撮影していた韓国人 3 人の若者は、大型カメラは格好がいいと流暢な日本語で答えた。

日本人、外国の旅行者ともに、大型カメラによる撮影シーンに強い興味を示したことに僕らもビックリした。

撮影を終え、ゾーンの位置づけの難しさ、カメラ・機材にそれぞれ問題もあり、実際の撮影によって初めて気づいたことも多かった。

若子さんのチェキ・インスタントフィルムは、今後改良されればかつてのポラロイドに似た使い方が期待できる。

研究会の名刺サイズミニゾーン解説は大いに役に立った。韓国語、中国語もあればもっといい。

新宿御苑はすでにインターナショナルパークになり、日本人に対しても撮影デモンストレーションに適した空間とみえた。

## 撮影会に参加して

岩田伸一

偶然にも東京のソメイヨシノ開花日と重なった 3/30 (土) に新宿御苑で開催された撮影会に参加させていただきました。参加者は中島先生、塚田さん、若子さんと私の4名です。

当日は好天で、しかも土曜ということもありたくさんの来場者の中での撮影会で我々4人の三脚+カメラは

傍を通る来園者の目に留まり一瞬人だかり状態となっていました。

そんな中で中島先生の案内された撮影ポイントで三脚をひろげ効率よく撮影することができました。

今回持参したカメラはエボニーのワイドタイプの4×5カメラで、昨年6月にゾーンセミナーを受講し、大判カメラの有効性を感じて購入しました。自身が取り組んでいる山岳写真にも持参できる軽量タイプで何回か練習した上で参加しましたが、カメラ操作は先生の指導で初めて気が付いたことも多く大変勉強になりました。

実際に申し上げるとピントを決めてレンズボードをロックするのを忘れていました。水準器の使い方でも水平は注意していましたが、垂直は安易に考えていました。これに付随する行為でシフトの操作方法、あと光が斜めから入る場合の遮光方法など今後の課題となる点も多く発見できました。

翌日今回10枚撮影したうちの6枚現像してフィルムの綺麗さに感動しました。

新宿御苑は初めて来園しましたが被写体にも恵まれているので時期を変えて訪れるのもよいかと思いました。

中島先生いろいろとご指導ありがとうございました。



## 特集・ミニレクチャー

ゾーンシステム研究会では、作品創りに役立つノウハウや研究成果などを例会で発表する「ミニレクチャー」を行っています。さいきんの発表から紹介します。

### 現像液の単薬品調合

小菅秀一

最近のコダックが D-76 を販売中止するなど、調合済み薬品類も入手しにくくなっています。このため、単薬品を自分で調合するための注意事項や実際の作業をレクチャーします。



#### ●注意事項

1. 防護用手袋とマスクを装着すること。保護メガネの着用もお勧めします。
2. 作業中は適度に換気をする。
3. 眼、皮膚、衣類に薬品を付着させないように注意を払う。専用のエプロンをつかい、作業後は十分に手を洗う。万一薬液が目に入った時のために、洗眼用器も準備するとよい。
4. 薬液廃棄は適切な処理が必要で、できれば廃棄処理業者に委託することを勧めます。

#### ●必要な用具

1. 秤 0.1g～300g まで量れるもの。家庭用の「タニタ KJ-212」(3,000 円前後)など。(0.01g まで量れるものがベストだが、2 万円前後と高額)
2. メスシリンダー・メスカップ: 20 ml、100 ml、500 ml、1000 ml 等。プラスチック製。
3. 貯蔵容器: ガラス又はプラスチック製で茶褐色のもの。金属製の蓋は不可。薬液貯蔵は 1000 ml、2000 ml の容器を使う。薬品はそれぞれ 100 ml、200 ml、500 ml 等の茶褐色薬瓶(やくびん)に保存。
4. 薬品を取り分ける皿など: 紙皿、紙コップ、プラスチック小皿が便利。粉末薬品を取り分けた

めに 90ml 程度の紙コップを複数用意し、薬品名とグラム数をあらかじめ記入しておくこと間違いを防げる。

5. 薬品採取のスプーン数種類 (薬品別に使用するため色分けする)
6. 液温計 (100℃)
7. 攪拌棒 プラスチック製のマドラーで可。棒状よりしゃもじの様なへら状の方が能率が良い。
8. 四つ切り程度のプラスチックバット (薬瓶などを並べておく。液こぼれ対策になる)
9. 漏斗
10. その他 手ぬぐい、紙タオルなど

#### ●調合作業

1. 必要な薬品と温湯および水を用意する。
2. 粉末薬品は、小容量紙コップに品名とグラム数を記入しておき、薬さじ(スプーン)で取り分けておく。
3. 処方の順番を守り、温湯に順次投入しながら攪拌を続ける。
4. 最後に水を加えて使用液(又は保存液)を得る。

#### ●D-76 処方

水 (50℃)	750 ml
メーソル	2.0g
無水亜硫酸ナトリウム	100g
ハイドロキノン	5.0g
ホウ砂	2.0g
水を加えて	1000ml

#### ●薬品の説明

- 1 現像主薬: メーソル、フェニドン、ハイドロキノン  
ハロゲン化銀を銀に還元する役を担う薬品。メーソルとハイドロキノンを組み合わせた MQ 処方が一般的。PQ 処方のフェニドンはハイドロキノンと組み合わせて使う。PQ 処方では増感性能が高い。
- 2 保恒剤: 亜硫酸ナトリウム  
未使用時の保存性向上、現像中の現像力維持のために加えられる薬品。亜硫酸ナトリウムの保恒剤が現像主薬を還元することで現像力を維持させる。なお、

亜硫酸ナトリウムは銀粒子を溶解する作用があるため、微粒子化のため多めに投入したり、また、高鮮鋭化のため少なめに投入したりして調整する。

3 アルカリ剤：ホウ砂、無水炭酸ナトリウム  
処理液の pH を調整する役割で加えられる。現像の進行には現像液の pH が大きく影響する。アルカリ性になるほど現像力は高くなる。主にフィルム現像液ではホウ砂(アルカリ度強)、印画紙現像液では炭酸ナトリウム(アルカリ度強)等が用いられる。

4 現像抑制剤：臭化カリウム(ブロムカリ)  
現像カブリを防ぐために加えられるのが臭化カリウム。現像力を抑えることで未露光もしくは若干感光したハロゲン化銀の現像を抑制する作用がある。

#### 現像カブリについて

本来は現像されないはずの未露光のハロゲン化銀もある程度現像されることが「カブリ」。

印画紙現像では、投入量により「純黒調温、黒調」の調整が可能となる。

(2023.6.10)

### 印画紙のドライダウン

畑 文夫

バライタ印画紙は、濡れた状態と乾いた後では調子が変わって見えることがあります。これは主にゼラチンが水で膨潤するためですが、仮水洗直後の濡れた試し焼きで露光時間を決めると、最終的に乾かして仕上げたプリントでは微妙に調子が変わることがあります。アダムスはこれを避けるために、ワークプリントを電子レンジで乾かして確認することも行いました。

(“THE Print” p.84 参照)

この「ドライダウン」効果は印画紙の銘柄によっても程度が異なるため、自分が常用する印画紙であらかじめテストしておくことをお勧めします。

#### ●ドライダウンの確認方法

同じネガから、適正露光時間と思われる前後 10% ずつ露光時間を変えて数枚プリントする。

プリントが乾燥したら白いビニールシートの上に並べて上端を固定する。

バットに水を張り、プリントの下半分を数分以上水

に浸ける。

水から引き上げ、水滴を拭ってから、下半分が乾かないうちに観察する。

(図では比較しやすいよう、1枚の印画紙に同じ画像を上下2か所プリントしてあります)

例えば、乾いた部分(上半分)の5秒露光と、濡れた部分(下半分)の4.5秒が同等に見えたとしても、濡れたプリントで判断した適正露光時間を、本番で10%増やせばよいことがわかります。できれば異なる調子の図柄で何種類かテストしておくといでしょう。

図はイーグル VCFB の例ですが、乾いた部分と濡れた部分では差が見えないので、ドライダウンの考慮は不要という結果になりました。

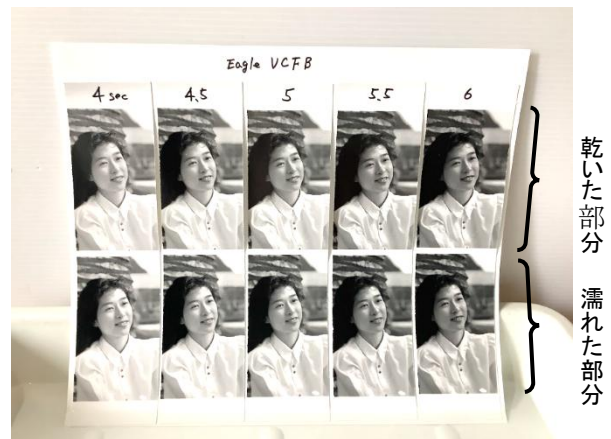


図 ドライダウンの確認

なお、プリントの調子を確認する照明は蛍光灯を避けるべきです。印画紙に蛍光増白剤が含まれていると、色味が変わって見えることがあります。

(2023.7.8)

### 前露光(フラッシング)

大内 元

フィルムや印画紙では、本番露出の前に、全面にわずかな光を当てておくと、コントラストを調整することができます。フィルムではシャドウの質感描写を改善したり、印画紙ではハイライトのトーンを改善するなどの効果があります。

フィルムの前露光はアダムスが“The Negative”の5章で説明していますが、ここでは印画紙に対する前

露光を紹介します。

部分的に輝度が高く隣接する部分がデリケートなシャドウだったり、木の枝や建物の形が複雑で焼き込みに苦労する場合などに利用価値があります。前露光によってピュアホワイトを残しながら最大1/2号までコントラストを低下することが出来ます。

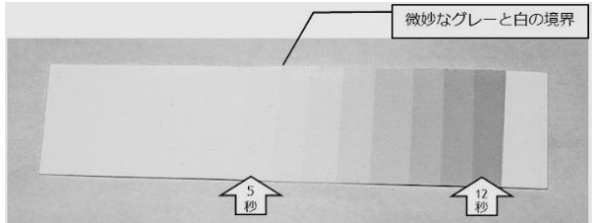
●実践方法  
準備

1. 引き伸ばしレンズ下のフィルターホルダーに、トレーシングペーパーを適宜折りたたんで置く。VC フィルターは最軟調(#00)とし、ネガキャリアにはネガを入れておく。



トレーシングペーパー

2. イーゼルには短冊形(5×25cm程度)に切った印画紙を置く。
3. 1秒の段階露光を行って結果を観察する。



4. わずかにグレーとなる一つ手前の露光時間を見つける(上図では5秒)
5. 段階露光の範囲で「わずかなグレー」が見つからない場合は、トレーシングペーパーの枚数を調整する。

本番露光

1. イーゼルに印画紙を入れ、上記で見つけた露光時間で全面露光する。
2. トレーシングペーパーを外し、VC フィルターを適切なものに交換して本番露光を行う。(フィルターの交換忘れに注意)

ストレートプリントで前露光(Pre-exposure)有無の効果を確認した。(下図)



建物の描写は変わらず、空のトーンをわずかに出すことが出来た。

(2023.9.9)

会員各位のプレゼンテーションを募集しています。候補に挙がっているタイトルには次のようなものがあります。

- ・スプリットグレーディングの方法
- ・ネガの補力方法
- ・イルフォード製セレンウムトナーのテスト
- ・フィルムホルダーのナンバリング方法
- ・写真はなぜ四角なのか?
- ・号数フィルターの露光時間補正方法

## 2024 年の活動記録

### 1 月例会 (13 日 文京シビックセンター4B 会議室)

・来年はゾーンシステム研究会設立 30 周年となるため、記念のイベントを行いたい。写真展は富士フィルムフォトサロンに応募したい。(若い会員を増やせるイベントも行いたい。公開セミナーや撮影会+暗室体験会などの提案あり)

### 2 月総会とセミナー (17 日 文京シビックセンター4B 会議室)

・今年のテーマは「都市の魅力」を継続して取り組みたい。  
・30 周年記念の事業は準備委員をきめて推進する。  
・セミナー 東京工芸大学教授 小林紀晴先生

### 3 月例会 (9 日 文京シビックセンター3C 会議室)

・30 周年記念担当の委員は次の方から自薦あり。  
石井(政)、臼井、葛城、鈴木(武)、長谷川(勇)、塚田、若子、大内、鈴木(知)、藤森、越後 (敬称略)  
・今年の写真展は年内可能な場所を探した結果、ギャラリー E&M 西麻布を申し込む。  
・利用可能な貸し暗室を調査した(いずれも 4×5 は不可)  
若子・・・品川 中小企業センター地下  
定員 3 名、一日使用料 1700 円、営利利用が禁止のため、一般向けの講習会は不可。  
鈴木知・・・狛江市西河原公民館の暗室  
地の利が悪く、手続きが煩雑(インターネット予約不可)

### ミニ撮影会 (3 月 30 日 新宿御苑)

参加: 岩田、塚田、若子 (別記事参照)

### 4 月例会 (13 日 文京シビックセンター3C 会議室)

・30 周年記念展の会場を調査継続する。  
・GIP 倉持氏より、目黒の JAM フォトギャラリーでグループ展開催の提案あり。

### 5 月例会 (11 日 文京シビックセンター4B 会議室)

・イルフォード製品が値上げとなるため、早めに注文すること。(小菅)  
・来年の写真展会場は富士フィルムフォトサロン(六本木)かギャラリー5610(表参道)を候補とする。  
・記念写真集の制作について  
デザインをすべて自分で行い、pdfの完全版下原稿とした場合、94 ページ 500 部で 35 万円であった(鈴木知)  
・引き伸ばし電球の LED 化  
白熱電球に比べ、露光時間は半分となり、多階調コントラストも概ね変化がなかった。(若子)

### 7 月例会 (13 日 文京シビックセンター 4A 会議室)

・30 周年記念展は富士フィルムフォトサロンに応募する。  
応募作品は「ポートフォリオ 1」「同 2」「昨年までに収集した作品(赤箱)からの選定」とする。  
・品川のレンタル暗室で 4×5 引き伸ばしが出来るようにした。各自のカメラ本体を利用する。(若子)

### 8 月例会 (10 日 文京シビックセンター地下アトリエおよび 4A 会議室)

・プリントの硫化調色実演(小菅)

### 静物撮影会 (8 月 4 日 シビックセンター地下アトリエ)

参加: 岩田、大内、中井 手伝い: 浜野、畑

### 9 月例会 (14 日 文京シビックセンター 3C 会議室)

・30 周年展会場を富士フォトサロンに応募した。審査結果は 10 月中旬判明の予定。赤箱作品から選定したものは「ポートフォリオ 3」とし、来年中に完成させたい。  
・これとは別に、有志でグループ展示も行いたい。

### 浜離宮撮影会 (9 月 23 日)

暗室ワーク (9 月 28 日 龍ヶ崎アルジャン)

### 10 月例会 (12 日 文京シビックセンター 3C 会議室)

臨時例会 (26 日 文京シビックセンター 3A 会議室)  
展示作品の額装確認と梱包など

### 写真展 (11 月 6 日～17 日 ギャラリー E&M 西麻布)

### 11 月例会 (23 日 文京区民センター3D 会議室)

・今年の写真展反省  
→自分でうまくプリントできない会員のために、中島代表の暗室で指導を受けられるようにする。(費用などは別途とりきめる)  
・富士フィルムフォトサロンから、来年 8 月以降の展示が決定したと連絡あり。

### 12 月例会 (14 日 文京区民センター3D 会議室)

・来年の展示役員・・・ 実行委員長 大内(サブ 畑)  
図録編集 浜野  
広報 鈴木知  
・ゾーンシステムテキストの一部改訂とネット販売を検討する。  
・作品のクオリティーを上げるために、例会で 2 名程度が自作をプレゼンし、批評してもらえる時間を設けたい。(小菅)

会員異動(敬称略) 新入会 松本一芭  
休会 皆川賢、鈴木武志

〔表紙作品〕

作者	若子敏規
タイトル	#shell
フォーマット	4x5
フィルム	FOMA PAN 200
	実効感度 EI 50
レンズ	135mm
絞り	f16
シャッター速度	1 sec
印画紙	オリエンタル イーグル VCFB

